

カバラ的教示画の図像学

—— 薔薇十字の錬金術を読み解く ——

シュヴァルツヴァルトの北部、湧水の豊かな谷間の小村バート・タイナッハの簡素な教会に、バロック様式の翼付き祭壇画「ヴェルテンベルク王女アントニアのカバラ的教示画」はある。この教示画に秘匿された思想を、その成立の歴史的背景を辿りながら、図像細部の分析を通じて明らかにしていく。錬金術とルネサンス・オカルト哲学に多大の関心を寄せたフリードリヒ I 世を祖父とし、J・V・アンドレーエが牧師として仕えた宮廷に育ったアントニア王女の周辺には、カバラの研究に専心するプロテスタント神学者の小サークルが形成されていた。この薔薇十字の理念は、王女のキリスト教カバラのサークルに継承され、教会制度によらない個人の霊性研鑽と、これを導く「全世界体系」たるマンダラの図像への観想的没入をめざす「カバラ的教示画」は、敬虔主義の先駆とも見なせるこの土壌から花開いた。

— 『バロックの神秘』より—



『カバラ的教示画の図像学』

- * 参加には予約が必要です。お越しの際は、cinema.musica.n.m@gmail.com までお申込み下さい。
- ☆ 開催日時：6月16日(日) 15:00~18:00
- ☆ 開催場所：空想藝術商會 視聴覚室 〒167-0054 東京都杉並区松庵 1-23-15 西荻ハイホーム 603号
- ☆ 参加費：3,000円